

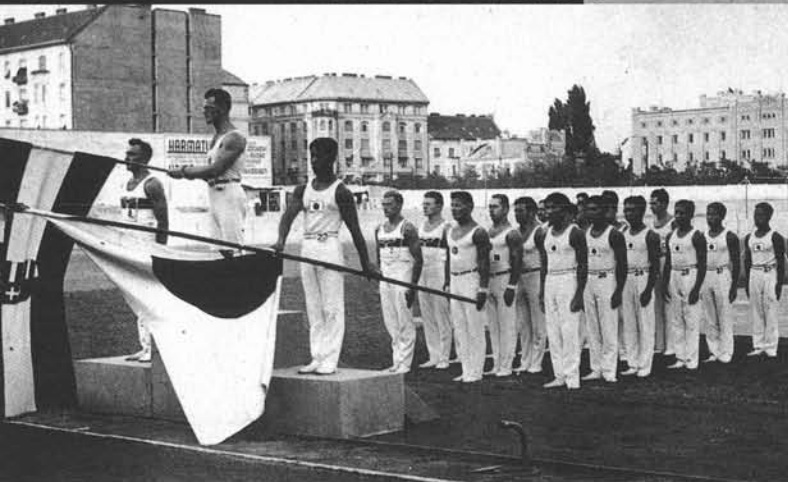
器械体操部



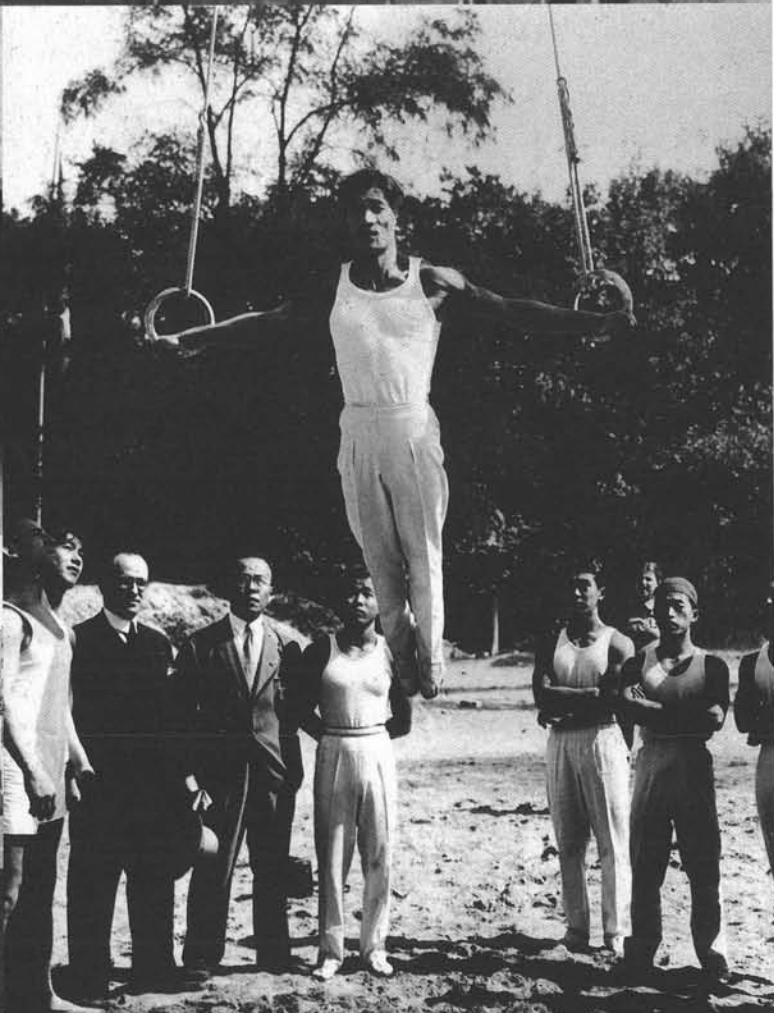
1936(昭和13年)・8・28 山中湖合宿での柏原三郎、現三田体操会副会長の平行棒“棒上後方宙返り”。



1933(昭和8年)・9 第2回全国大学高等専門学校対抗器械体操競技大会優勝記念写真。この後本塾は本大会8連覇の偉業を成した。前列左より2番目が野上十郎三田体操会会長、後列右端が野坂浩三三田体操会副会長。



1935(昭和10年)・8・10 ハンガリー・ブタペストにおける第6回万国学生競技会表彰式。日本代表として参加の本塾チームは堂々2位となり、体操競技で初の日の丸を掲げた。壇上は競手団主将高田増太郎選手。



1935(昭和10年)・8頃 第6回万国学生競技会時のスナップ。練習中の野坂浩三選手は現三田体操会副会長であり、日本体操協会前副会長として日本体操界の躍進に多大な貢献を果たした。



1936(昭和11年)・8 現在まで続く恒例の夏期合宿での練習風景。
鞍馬、平行棒、柏原選手。鉄棒、生田選手。吊輪、大原選手。



1938(昭和13年)・3頃 二田綱
町練習場での鞍馬の練習風景。綱町
の練習場は明治37年から日吉記念館
が完成した昭和33年まで50年以上に
わたる部のメイン練習場であった。



1952(昭和27年)・8 ヘルシンキオリンピックの
練習会場にて塾の鍋谷選手と後に編入学する
小野選手。戦後初めて日本が参加したオリンピッ
クとして国際交流に果たした役割も大きかった。



1940(昭和15年) 当時の早慶新人戦のスナップ。



1952(昭和27年)・8 ヘルシン
キオリンピック出場体の体操選手
の壮行会。右端が小野選手、2
番目が本塾の鍋谷選手。歌って
いるのは藤山一郎氏。



1941(昭和16年)・2・1 日比谷公会堂での日本
体操競技連盟主催、器械体操実演会に出場の早慶
等選手。当時のパンフレットには「錬成により皇
国の永遠的發展を深く希う」という一文がある。

1952(昭和27年)・5 ヘルシンキオリンピック最終予選会での鍋谷選手の平行棒。この大会で4位に入賞し、見事代表の座を勝ち取る。



1967(昭和42年)・6・11 日吉記念館にて、第20回対早稲田定期戦での松沢選手の鉄棒。



1962(昭和37年)・12・20 部創立60周年を記念して台湾へ遠征。各地で演技会を開催。出発にあたって羽田空港にて柄沢団長以下選手団の記念写真。



1961(昭和36年)・8 恒例の夏期管平合宿で唯一の楽しみはこの根子岳登山である。

1963(昭和38年)・8 広島体育館にて、第17回全日本学生体操競技選手権大会における女子団体表彰式(2部2位)。



1962(昭和37年)・9・30 日吉記念館にて、創立60周年記念式典出席者による記念写真。



1962(昭和37年)・12 台湾遠征時、台中市体育館での新美選手の跳馬演技。体育館には10000人の観客が集まり、当時最高の技だった。「山下跳び」に大喝采だった。



1966(昭和41年)・6 第19回東日本学生新体操選手権大会での矢田選手の宙状布。



1973(昭和48年)・8 日吉記念館にて。第1回幼稚園生夏期体操教室の参加者。この後現在まで続く夏の恒例行事となった。



1977(昭和52年)・秋 日吉記念館にて、創立75周年記念式典出席者による記念写真。

1902・10 慶應義塾器械体操倶楽部創立。会長に気賀勘重就任。

1903・12・5 器械体操部体育会加入。部長に板倉卓造就任。

1904・9 綱町新運動場に鉄棒、横木、高飛棒の新器械を設置し、練習場を作る。／11・27 綱町にて第1回大会を行う。

1905・6・18 塾内紅白競技会開催。

1906・11・4 青山師範学校と第1回連合競技会を綱町にて行う。

1907・4・25 部長に気賀勘重就任。

1908・12・5 普通部対麻布中学の連合競技会を行う。

1909・5・30 本塾、青山師範、麻布中学の連合競技会を綱町にて行う。

1910・6・5 本塾、青山師範、麻布中学、成城学校による第1回四校連合大会を綱町にて行う。

1920・1 初めての寒稽古を行う。

1921・6・12 器械改築記念四校連合大会および普通部対商工第1回対部競技会を綱町にて行う。

1923・4・21 この年全国学生連盟が創立され、その主催による第1回学生器械体操選手権大会が神田YMCAで行われ、中等部、専門学校共に本塾が優勝。

1926・11・16 第6回学生選手権大会が大井町日本体操学校校庭で行われる。本大会はこの回をもって中止となった。

1928・9・5 綱町にジムナスティック・アパラタスを設置。／9・26 早大に器械体操クラブ創立され、本塾部員12名がコーチに派遣され合同練習を行う。／11・18 本塾主催中等学校競技大会を綱町で開催。団体優勝は普通部。／12・2 日比谷公園にて器械運動の発達、市民体育の普及を目的として早慶連合試演会を東京市の後援で行う。

1929・11・17 第1回早慶対抗器械体操競技

会が綱町で行われ、本塾が優勝。時事新報寄贈の優勝杯を獲得。

1931・10・24 第3回早慶戦を行う予定であったが、審判上の問題で早大が棄権し本塾が優勝。以後中止となる。

1932・10・23 第1回全国大学高等専門学校対抗器械体操競技大会が幡ヶ谷の体育研究所にて開かれ本塾準優勝。／10・29～30 綱町運動場にて創立30周年記念大会を開催。

1933・9・30 第2回全国大学高等専門学校対抗器械体操競技大会(文理大)にて優勝。以後1940年まで8連覇を成し黄金期を迎える。

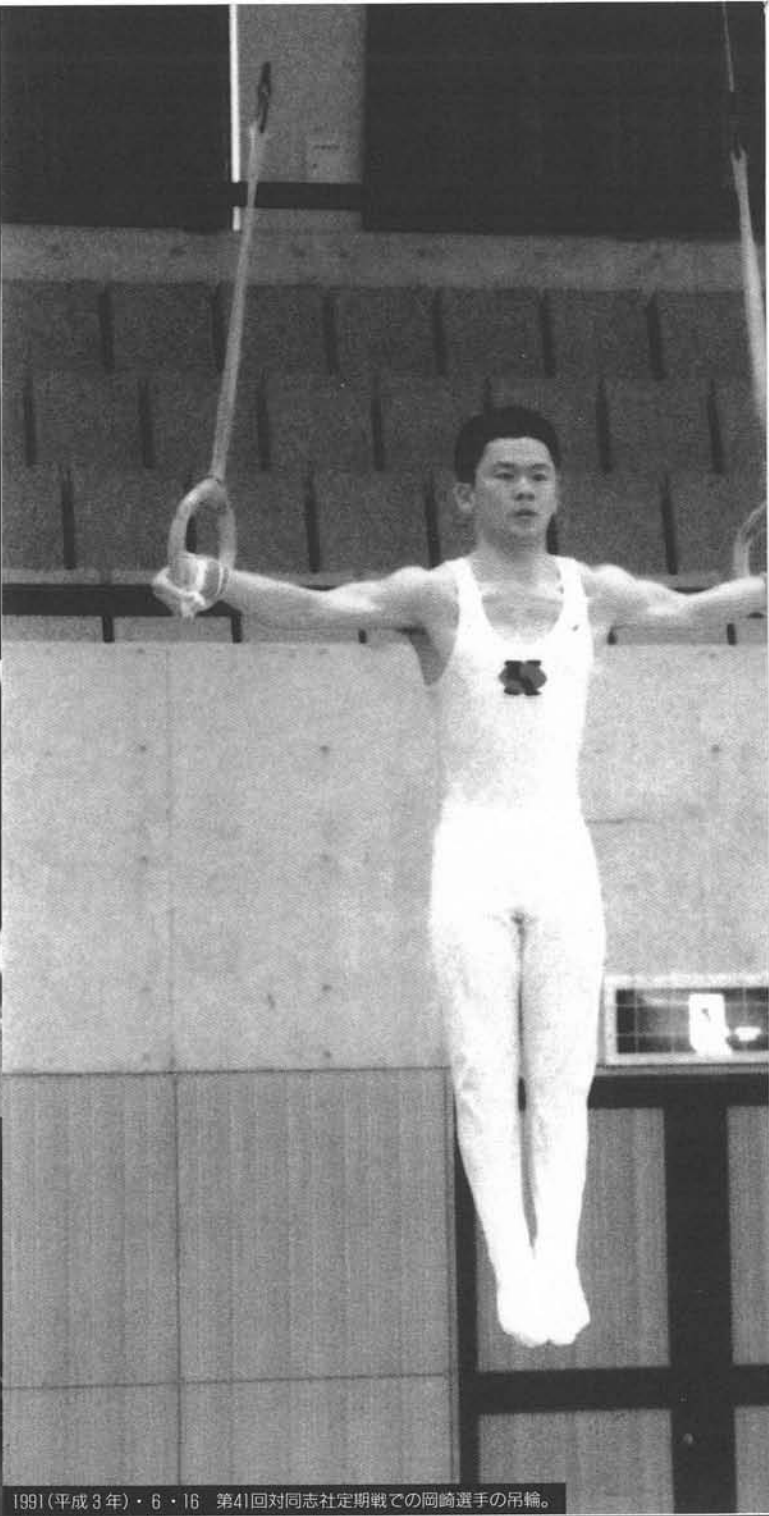
1935・8・10 プタペストにて第6回万国学生競技会が開催され、本塾チームが日本代表として参加、第2位を獲得し国際競技会で初の日の丸を掲げる。

1936・7 第11回オリンピック・ベルリン大会に野坂浩出場。

1937 部長に平井文雄就任。



1987(昭和62年)・11・3 日吉記念館にて、創立85周年記念式典出席者による記念写真。



1991(平成3年)・6・16 第41回対同志社定期戦での岡崎選手の吊輪。

1938・6・28 世界選手権大会(ブラハ)に生田広之出場。

1939・5・20 復活第1回早慶戦が国民体育館にて開催され、本塾が優勝。

1942 秋、創立40周年記念祝賀会を開催。

1944・9・7 時局柄、選手は兵隊に、勤労動員にと駆り出され休部となる。

1946・4 再度体育会加入が認められた。

1947・11 復活第1回全日本学生選手権大会が開催され、5位となる。

1948・5・1 再復活第1回早慶戦が早大にて行われる。12 戦後部長空席であったが柄沢日出雄が就任。また、荒れ果てていたグラウンド、器具が学校、先輩の後援のもと完備された。

1951・6・1 綱町にて第1回慶明戦を行い、大差をもって優勝。6・23 同志社大学にて第1回慶同戦を行い、大差をもって優勝。11・15 横浜反町ジムにて第5回全日

本学生選手権大会、3位獲得。

1952・5・23 第15回オリンピック・ヘルシンキ大会の最終予選で鍋谷鉄巳が4位を獲得し、代表選手として8月の大会に出場。8・23 高校器械体操部が全日本高校選手権大会に初めて団体出場を果たす。10・30 体育会加入50周年記念大会を開催。12・13 第6回全日本選手権大会にて団体3位入賞。

1953・11・28 第7回全日本選手権大会兼世界選手権大会予選(日本体育大学)にて鍋谷入選、世界選手権出場資格を得る。

1954・6 第13回世界体操競技選手権大会(ローマ)に鍋谷、小野喬出場。

1955・7・9 第8回早慶戦にて戦後初の勝利。

1956・5 第16回オリンピック大会予選会にて小野喬1位を獲得。第16回オリンピック・メルボルン大会に小野喬出場。鉄棒1位、鞍馬2位、平行棒3位、吊輪5位を獲得。

1960・8 第17回オリンピック・ローマ大会に小野喬出場。

1961・1・14 全日本学生体操競技連盟、新加盟校として本塾女子4名を承認。

1962・7 第15回世界体操選手権大会(ブラハ)に小野喬出場。9・30 創立60周年記念式典を日吉記念館で開催。12・20 創立60周年を記念して一行15名にて台湾遠征を実施。各地で模範演技会を行う。

1963・7 第17回全日本学生選手権大会(広島)にて女子が2部2位となる。

1964・10 第18回オリンピック・東京大会に小野喬出場。

1967 部長に倉澤康一郎就任。

1972 秋、創立70周年記念式典を日吉記念館にて開催。

1973・8 幼稚舎生を対象とした体操教室を開催。以後毎夏期休暇中に実施。

1977 秋、創立75周年記念式典を日吉記念



現在の練習風景。日吉記念館にて。跳馬、吊輪、女子新体操の輪。

館にて開催。

1982 秋、創立 80 周年記念式典を日吉記念館にて開催。

1984・8・24 この年設立された新体操部門(女子)が第 36 回全日本学生選手権大会(駒沢体育館)に出場。／10・21 本塾器械体操部が中心となり第 1 回報知新聞杯体操競技会を日吉記念館にて開催。準優勝となる。

1987 秋、創立 85 周年記念式典を日吉記念館にて開催。



昭和10年代、菅平合宿での生田広之選手の鞍馬の練習風景。